触れるケアの定量化、手技教育支援システムの開発および腰痛のある看護職者の就業支援

関連するSDGsの国際目標

人間看護学部　人間看護学科　　講師　　関　恵子
研究分野　：基礎看護技術、医療福祉工学
研究室ＨＰ：http://www.nurse.usp.ac.jp/kiso/

①触れるケア“マッサージ教育”として、大学の基礎看護技術学やホリスティックケア論でマッサージ教育を行っています。そして、地域の住民の方々や病院で活動を行う、看護ボランティア“未来看護塾”で看護学生が実施するハンドマッサージの実技指導を担当しています。

②看護学生および視覚障害のあるあん摩マッサージ指圧師養成学校の学生や有資格者を対象とした手技教育支援システムを工学部と医療教育システム開発企業と共同制作を行っています。

③看護師の腰痛者経験者は非常に多く、腰痛により仕事だけでなく私生活にも影響を及ぼします。看護職者が、仕事でも私生活でもいきいきと過ごせる体づくりを行うための研究を彦根市内の病院の協力を受け、腰痛緩和ケアに関する就業支援に向けた介入研究を実施しています。

■看護教育におけるマッサージ手技学習システムの開発

あん摩マッサージ指圧師の資格を生かし、看護教育・地域健康支援で看護マッサージを行っています。マッサージは、受ける側の心地よさだけでなく、心身への効果を見える化し、マッサージの心地よさを定量化することが安全で安楽な看護実践を行う上で重要です。そのため、学習システム開発を本学の工学部機械システム科の西岡講師と行っています。



■腰痛のある看護職者の就業支援に関する研究

看護師の看護援助を行う上で、腰に負担のある患者の持ち上げ動作をなくす取り組みは積極的に行われています。しかし、寝たきり患者さんの看護の場合、清拭や排泄、食事の援助で中腰姿勢といった腰痛の原因となる動作が多く存在します。

研究では、腰痛原因動作による腰の負担“筋肉の疲労”を改善するための血行促進作用のあるマッサージによる就業支援研究を実施しています。



■視覚障害者を対象とした手技教育支援システムの開発

視覚障害のある人々の主要な職業としてあん摩マッサージ指圧師業があります。しかし、所得は同じ資格を持つ晴眼者の半分以下であり、職業的地位も低いことが問題となっています。その原因として、視覚データが得られない状況での手技習得の難しさが挙げられます。

現在、手技教育支援システムを、本学の工学部機械システム科の西岡講師と共同開発しています。この開発では、県内の視覚障害者センター、県立盲学校、医療教育システム開発企業と連携し取り組んでいます。

